

【専門科目領域/専門科目群/看護研究】

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
看護研究方法論	NSP35_002	必修	1	3	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
梶原 睦子 他	409	mutsuko.kajiwara	各担当教員より提示する。		
授業の目的・概要	看護研究の成果は、看護実践の根拠として、看護の対象である人々への支援に還元される。また社会における看護の必要性を示すとともに看護を説明することを可能にする。本科目では、基本的な研究方法の知識を定着させるとともに文献クリティークの実際を通じて、看護現象について論理的・批判的に施行する力を養うとともに、より良い看護を探求する課題解決の能力を向上させる。				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・デバート <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> その他 ()				
学習上の助言	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目には、3年前期必修科目の「看護研究概論」で学んだ知識が必要となるので、看護研究概論内容を理解した上で臨むこと。 ・4年次で履修する「看護研究実践」につながる科目であることから自身の研究課題を見出すために論文講読やクリティークについて真摯に取り組んでほしい。 				
教科書	かんたん看護研究 さがす つくる しあげる 南江堂(看護研究概論で購入済)				
参考書	指導教員より適宜提示する。				
外部教材	特になし				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	文献検索や文講読の必要性や方法を理解し説明することができる。	HSU(1)(2),NS(1) (3)			
②	文献クリティークの必要性や方法を理解し説明することができる。	HSU(2)(5),NS(1) (3)			
③	自己の関心領域に関連した文献を適切に検索し収集することができる。	HSU(5),NS(3)			
④	文献を文献カードに整理し、他者にわかるように説明することができる。	HSU(4),NS(4)			
⑤	文献をクリティークし、他者にわかるように説明することができる。	HSU(4) (5),NS(2)			
⑥	ディスカッションを通じて他者の意見を尊重し自己の関心や疑問を探求することができる。	HSU(5)(6),NS(5)			
⑦	主体性を持って取り組むことができる。	HSU(6)NS(5)			
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間(時間)		
1~2	オリエンテーション 文献レビューについて 論文講読について クリティークの方法について	講義	教科書第1章、第2章、授業資料を復習してくる。 文献講読、文献カード作成、クリティークを進める。		
3~8	領域ごとに学生を配置する。 1.自己の看護実践上の疑問や問いについて考える。 2.文献検索 3.文献講読 4.文献カード作成 5.クリティーク資料作成 6.プレゼンテーション・ディスカッション	演習・GW プレゼンテーション ディスカッション	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの授業や実習で得た自己の看護実践上の疑問や問い、興味、関心を持った分野の先行研究を自主的・積極的に調べる。 ・前半は文献講読 後半はクリティークをする。 論文講読・クリティークについて プレゼンテーションとディスカッションを行う。 原則として、全員が前半・後半1回以上プレゼンテーションする。 ・積極的にディスカッションに参加する。 		
試	「達成度評価」「評価のポイント」等を参照				

【専門科目領域/専門科目群/看護研究】

達成度評価							
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		0	50	40	10	0	100
総合力指標	知識・技術力	0	0	0	0	0	0
	思考・推論・創造する力	0	20	0	0	0	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	10	0	0	10
	発表・表現伝達する力	0	10	10	0	0	20
	コミュニケーション力	0	0	10	0	0	10
	取組みの姿勢・意欲	0	10	10	10	0	30
問題を見発見・解決する力		0	10	0	0	0	10
評価のポイント							
評価方法	行動目標	評価の実施方法及び注意点				フィードバックの方法	
試験	①	作成した文献整理カードとクリティーク整理カードをそれぞれ2枚ずつ提出する。指定したA4フォーマットを使用する。	試験	①	②	③	④
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
	⑦						
レポート	①	作成した文献整理カードとクリティーク整理カードをそれぞれ2枚ずつ提出する。指定したA4フォーマットを使用する。	レポート	①	②	③	④
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
	⑦						
成果発表	①	プレゼンテーションのための資料を作成する。発表のあとディスカッションを行う。進行は、教員の指導のもと学生主体で行う。1人2回は行う。	成果発表	①	②	③	④
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
	⑦						
ポートフォリオ	①	・文献カード・資料をファイリングし、自己管理していく。これを用いて、目標の達成度を評価する。また、日々の学習態度、レポート作成への取り組み姿勢を含め、総合的に評価する。	ポートフォリオ	①	②	③	④
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
	⑦						
その他	①		その他	①	②	③	④
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
	⑦						
備 考							
他担当教員	次に示す教員が学生の指導にあたる。また、教員の補助者として助手が指導する場合もある。 ◎梶原睦子(科目責任者)、看護学科教員全員						
教員の実務経験	・科目責任者は、看護師として臨床経験15年(非常勤含む)、大学教員として看護基礎教育を20年以上経験する。 ・教育を担当する教員は、看護職としての実務経験、大学教員としての学生指導の経験を有する。						
実践的授業の内容	担当教員は、看護職としての実務経験、臨床経験および今までの学生指導で得た経験、研究への関心や研究成果の紹介を交えて、学生が研究に関心が持てる。自己の研究課題が見いだせるように、授業を進める。						
その他	本シラバスは一定の方針を示したものであり、詳細については領域の裁量に委ねられる。 ・レポート提出やプレゼンテーションの詳細等は指導教員の指示に従うこと。 ・自ら進んで指導を受ける心構えを臨み、計画的に進めること。 ・状況によっては一部 Teams を使った同時双方向型授業を行う可能性がある。						